

# あなたのくらしに雨水を

## B.建物・施設でできること

熊谷 直人

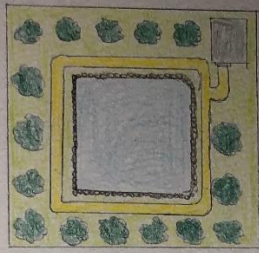
近年、台風や大雨が多くなっており、各地で内水氾濫や破堤など様々な被害が起こっている。

これも地球温暖化の影響で、これからさらに強い雨が降ると予想されている。それに反し、福岡県は渇水が起きやすいところであり、過去のデータの傾向から、数年後に全く雨が降らない年が出てくると予想されている。水は私たちにとってなくてはならないものであるが、時に水は私たちの脅威になる。したがって、雨水をうまく活用し、また、雨水による被害をできるだけ最小限に抑える必要がある。

ここでは、雨と仲良く暮らすために、建物・施設でできることについて、私のアイデアを述べていく。

まず、私は建物の屋上に注目した。近年、屋上に緑を取り入れているところをよく見かける。それによって建物に降った雨を一時的に貯水することができ、それに加え蒸発散によって、雨水をかえすことができている。私は、その緑の中に池を作ればいいのではないかと考えた。池を作ることにより、貯水の機能が大幅にあがり、蒸発によってかえすこともできる。また、建物の周りに雨庭を作ったり、植物を植えたり、木々を育てたりと、緑地を増やすことにより、雨水を蓄えることができ、特に雨庭は降ってきた雨を一時的に貯めてゆっくりと地面に返すことができ、洪水を抑制するほか、雨庭から蒸発する水によってヒートアイランド現象を緩和することも可能である。そして、建物の地下に汚水と雨水の貯水槽を作り、大雨が降った場合、建物に降った雨を地下の貯水槽に貯めて、必要な時に建物内で再利用する。雨水の貯水槽はできるだけ雨水を地面に浸透させるように作る。大雨の際、汚水はなるべく下水道に流さないようにし、貯めることで内水氾濫をできるだけ起こさないようにすることができる。

このように、私は建物屋上の貯水池と建物周りの雨庭と建物地下の貯水槽の3つを作ることでより良い雨水活用、また雨水による被害を最小限に抑える方法だと考える。



上から  
見ると

